

茅ヶ崎市寒川町 入退院支援ガイドブック

I ガイドブックの目的

このガイドブックは、茅ヶ崎市・寒川町における「在宅医療介護連携推進事業」の一翼を担い、その中でも特に在宅療養患者に対する入院から退院時における病院と地域（ケアマネジャー）との連携の在り方について検討し、それぞれの専門職が共通の方向性を持ちながらシームレスな連携を効率的に行うためのツールとしてまとめたものです。

II 作成までの経緯

これまで、茅ヶ崎寒川地域における医療と介護の連携推進に関する取り組みは、3 師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）が、茅ヶ崎市と寒川町を一つの活動区域としていたこともあり、他の職種においても市町が協同する形で連携への取り組みを行ってきました。平成 27 年度には、茅ヶ崎市と寒川町において協定を取り交わし、在宅医療介護連携推進事業を協同事業としてさらに強化してきたという経過があります。

その中で、医療と介護の連携については継続的に検討が行われ、平成 28 年度の検討委員会において「茅ヶ崎寒川 医療・介護の連携用紙」（以下「連携用紙」とする）の運用が決まり、主に診療所医師と看護師やケアマネジャーとの連携ツールとして活用され、診療所医師との連携がしやすくなったという感想が聞かれるようになってきました。

このような現状の中、「連携用紙」を病院との連携に使用するケースがあり、電子カルテを使用している病院から、運用に関する問題点を指摘されました。

病院側から①「連携用紙」の患者氏名がイニシャルで運用されているため、電子カルテに取り込むことができない、②不特定多数のスタッフがかかわるため、イニシャルの運用は患者間違いなどのリスクが伴う、といったことが問題点として出されました。これらの状況を踏まえ、今年度は病院内の医療連携に関わるスタッフとケアマネジャーとが意見交換できる場を作り、ケアマネジャーと病院との医療介護連携についての課題について検討しました。

茅ヶ崎市では、以前からケアマネジャーの働き方を支援する目的で業務の内容をまとめた「虎の巻」が作成されており、今後は寒川町も協同し、ケアマネジャーの主導で見直すことになっていました。

さらに、平成 30 年度の診療報酬改定において、さらなる地域包括ケアシステム推進が打ち出されたことを受け、在宅で療養中の住民が入院する場合の連携をスムーズに行うことを目指して、新たにケアマネジャーと病院との連携をスムーズに運用することを目的とした「茅ヶ崎市寒川町 入退院支援ガイドブック 一病院と地域のシームレスな連携を目指して」を作成することとなりました。

初版は、新規に参入するケアマネジャーや病院スタッフが共有できる指南書として、記載する内容を最低限必要なものに絞りました。さらに、入院時に使用するケアマネジャーからの情報提供用紙について検討し、できるだけ統一したフォーマットを使用していくことにしました。（現時点では、既存の用紙使用を否定するものではありません）

この「入退院支援ガイドブック」は今後も検討・修正を重ね、より内容を充実させていくことを目指していくものです。